

# めぐみイエス・キリスト教会

2022年3月13日(日)第二主日礼拝・午後2時  
週報「通算第599号」



## 2022年標題聖句

### 第 I テモテへの手紙御6章17節～19節

《高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませて下さる神に望みを置き、善を行ない、立派な行ないに富み、惜しみなく施し、喜んで分け与え、来たるべき世において立派な土台となるものを自分自身のために蓄え、まことのいのちを得るように命じなさい。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

## ◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌266「罪、咎を赦され」	p. 418
【交読文】	No.17 詩篇第46篇	p. 892
【賛美Ⅱ】	新聖歌103「わがためイエス君」	p. 143
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【先週説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル曲No.1「あなたと共にいつまでも」	
【聖書朗読】	使徒の働き15章22節～29節(新約p. 265下段)	
【礼拝説教】	《教会からの最初の手紙》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌165「栄光イエスにあれ」	p. 235
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

### ●ポイント1.「バルサバ」と「シラス」とは？

■**バルサバ** 意味は「安息日の子」。マッテヤとくじを引いたバルサバとは別人。エルサレム会議の後、その決議をアンティオキアに届けるために、シラスと共に選ばれた。兄弟たちの指導者で本名はユダであった。

■**シラス** エルサレム教会の主要なメンバーの一人で「預言者」とも言われていた。パウロやペテロの働きを助けた。シラスはヘブル語で、シルワノはラテン語読みである。シラスとシルワノは明らかに同一人物である。

エルサレム会議の結果、パウロとバルナバとバルサバと共にアンティオキアに遣わされたが、その後パウロと共に第二回伝道旅行に出発した。

当時の教会では、「使徒」とは言われていないが、彼の果たした役割は非常に大きい。またシラスもローマ市民であったことには間違いない。

またパウロがテサロニケに書き送った2つの手紙の差出人は「パウロ、シルワノ、テモテから」となっている。その後のシラスは、第Ⅰペテロに「私の認めている忠実な兄弟シルワノによって」と書かれており、パウロ殉教後、ペテロとマルコと共に、ローマにおいて行動していたと思われる。

### ※第Ⅰテサロニケ1章1節「紀元61年コリント教会から」(新約p.408上段)

1:1 パウロ、シルワノ、テモテから、父なる神と主イエス・キリストにあるテサロニケ人の教会へ。恵みと平安があなたがたにありますように。

### ※第Ⅰペテロ5章12節～13節「紀元63年ローマから」(新約p.472上段)

5:12 忠実な兄弟として私が信賴しているシルワノによって、私は簡潔に書き送り、勧めをし、これが神のまことの恵みであることを証しました。この恵みの中にしっかりと立っていなさい。

5:13 あなたがたと共に選ばれたバビロンの教会と、私の子マルコが、あなたがたによろしくと言っています。

### ●ポイント2. 「聖霊」と「私たち」とは？

#### ※エペソ人への手紙4章1節～5節「使徒パウロの勧め」(新約p.388上段)

4:1 さて、主にある囚人の私はあなたがたに勧めます。あなたがたは、召されたその召しにふさわしく歩みなさい。

4:2 謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに耐え忍び、

4:3 平和の絆で結ばれて、御霊による一致を熱心に保ちなさい。

4:4 あなたがたが召された、その召しの望みが一つであったのと同じように、からだは一つ、御霊は一つです。

4:5 主はひとり、信仰は一つ、バプテスマは一つです。

### ●ポイント3. 私たちキリスト者が、常に求めるべき「御霊の実」とは？

#### ※ガラテヤ人への手紙5章22節～23節抜粋「九つの実」(新約p.382上段)

5:22 しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、

5:23 柔和、自制です。

## ◎先週の礼拝メッセージの概要【主の兄弟ヤコブの発言】

《第1回エルサレム教会会議の続きとなります。シモン・ペテロの発言、そしてパウロとバルナバの異邦人の救いの証しに続き、エルサレム教会初代牧師である主の弟ヤコブが発言しました。「兄弟たち、私の言う事を聞いて下さい。神が初めに、どのように異邦人を顧みて、彼らの中から御名の為に民をお召しになったかについては、シメオンが説明しました。」と。

主イエスには、ヤコブ、ヨセフ、シモン、ユダの4人の弟が、そして2人以上の妹がいたことを聖書は書き記しています。ヤコブは次男です。

不思議なことに、主イエスの公生涯中には、彼らは信じなかったのです。十字架の側には、母マリアだけで彼らがいなかったことは明白です。

しかし、復活と昇天後には、ヨハネ・マルコの家には、母マリアと共に弟と妹たちが祈りを捧げています。パウロは、このように証しています。『その後、キリストはヤコブに現われ、それからすべての使徒たちに現われました。』と。

さて、ヤコブはアモス書のみ言葉から引用して、発言を続けます。

『私は倒れているダビデの仮庵を再び建て直す。それは、人々のうちの残りの者と私の名で呼ばれるすべての異邦人が、主を求めるようになる為だ。』ですから、私の判断では、異邦人の間で神に立ち返る者たちを悩ませてはいけません。ただ、偶像に供えて汚れたものと、淫らな行ないと、絞め殺したものと、血とを避けるように、彼らに書き送るべきです。」と。

「偶像に備えたものはすべて汚れている」と言うのが、ユダヤ人の理解です。つまり「食べてはならない」と言うことです。次に「淫らな行ない」とは、性的不品行を指しています。そして「絞め殺したもの」とは、絞め殺された動物は体内に血が残っています。つまり「血を食べてはならない」と言うことです。これらの事を守るように、書き送ることを決定したのです。

主の弟ヤコブの発言で、教会会議は一致しました。彼の篤い人望と、紛れもなく聖霊によって一致し、最適な結論が導き出されたのです。》

## ◎お知らせ

※次回礼拝は、3月20日(日)午後2時から教会にて行ないます。また3月27日(日)は通常通り、午前10時からとなります。